

神仏信仰とともににある会所

—奈良町モノ語り調査から⑥—



勝野 一

278 勝野 一

奈良まちづくりセンターは、文化庁の助成を受け、「奈良町モノ語り調査」を行い、2年目の29年度は井上町と手貝(てがい)町の会所(集会所)を対象に、信仰行事や会所の営みを伝える企画・器物・道具などのモノを調査した。奈良町の会所だけではなく、人々の信仰の場として伝統を伝えてきた。

私は7年前、奈良町の会所で行われている伝統的な信仰行事を映像化する、奈良まちづくりセンターの「奈良町の会所—うけつべ祈りとつどい」調査に加わり、井上町会所の観音講並びに井上(いがみ)神社祭りの調査撮影に同行した。そのときの体験を含めて、会所の信仰的侧面について述べる。

▼井上町の観音講

平成22(2010)年、木造2階の古い建物を取り壊して鉄筋コンクリートで新築されたが、集会室の廊下(すこし)に一面観音立像2体(うち鎌倉時



井上町会所の観音講
(2011年9月17日、勝野一・撮影)

間には、戦没者の冥(めい)福(ふく)を祈る「支那事変大東亜戦争英靈(ひれい)」の位牌(ひばい)が安置され、戦時中は町内から出征した兵士の無事を祈願したいという。今は町民の健康と安全、病氣平癒(へいゆ)を祈つたりしている。

位牌もそろだが、講で使われる仏具や机などは町内の人々が寄付したモノが多い。講員は10名

代のものは奈良市指定文化財)を祀(まつ)る。観音講が結成された時代は解(わか)らないが、月例17日の講は女性のみで法要が行われる。2体の本尊の間に、戦没者の冥(めい)福(ふく)を祈る「支那事変大東亜戦争英靈(ひれい)」の位牌(ひばい)が安置され、戦時中は町内から出征した兵士の無事を祈願したいとい

う。今は町民の健康と安全、病氣平癒(へいゆ)を祈つたりして

いる。

導師は以前、町内の尼寺・高林寺の庵主(あんじゅ)さんが勤めていたが、高齢のために辞退された以降は、講員が順繰り勤めている。般若心経・觀音經・西國三十三番御詠歌

と、戰前に町独自で作った御詠

代のものも奈良市指定文化財)を祀(まつ)る。観音講が結成された時代は解(わか)らないが、月例17日の講は女性のみで法要が行われる。2体の本尊の間に、戦没者の冥(めい)福(ふく)を祈る「支那事変大東亜戦争英靈(ひれい)」の位牌(ひばい)が安置され、戦時中は町内から出征した兵士の無事を祈願したいとい

う。今は町民の健康と安全、病氣平癒(へいゆ)を祈つたりして

いる。

導師は以前、町内の尼寺・高

林寺の庵主(あんじゅ)さんが勤めていたが、高齢のために辞退された以降は、講員が順繰り勤めている。般若心経・觀

音經・西國三十三番御詠歌

と、戰前に町独自で作った御詠

代のものも奈良市指定文化財)を祀(まつ)る。観音講が結成された時代は解(わか)らないが、月例17日の講は女性のみで法要が行われる。2体の本尊の間に、戦没者の冥(めい)福(ふく)を祈る「支那事変大東亜戦争英靈(ひれい)」の位牌(ひばい)が安置され、戦時中は町内から出征した兵士の無事を祈願したいとい